

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 乗鞍環境保全対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境生活政策課 中部山岳国立公園活性化推進係

電話番号：058-272-1111(内2926)

E-mail：c11260@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,933 千円 (前年度予算額： 15,631 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	15,631	0	0	0	0	0	0	0	15,631
要求額	16,933	0	0	0	0	0	0	0	16,933
決定額	16,933	0	0	0	0	0	0	0	16,933

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

乗鞍地域(中部山岳国立公園内乗鞍鶴ヶ池集団施設地区周辺)は標高2,700m域を自動車
で訪問できる県内有数の観光地であり、この貴重な自然環境を岐阜県の自然資産として後
世に残すため、環境保全施策を実施。

乗鞍地域は、高山帯の貴重な動植物の生息地であるが、多数の人が入り込むことによる
自然環境の悪化が懸念されている。

(2) 事業内容

①乗鞍環境自然保護員設置

乗鞍鶴ヶ池集団施設地区において、利用者が自然環境に与える影響を低減させるため
「乗鞍環境自然保護員」を設置・運営する業務

②獣害対策研究会

乗鞍地域におけるツキノワグマの出没やイノシシ等の食害についての研究会等を開催

③環境影響評価調査

乗鞍スカイラインの自動車利用の規制見直しの検討資料とするため調査を実施

(3) 県負担・補助率の考え方

・県負担金 100%

法定外目的税である乗鞍環境保全税が主な財源

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	63	講師謝礼
旅費	206	講師費用弁償、業務旅費
需用費	235	消耗品費、燃料費
役務費	63	通信運営費
委託料	15,898	乗鞍環境自然保護員設置、環境影響評価調査委託
使用料	298	乗鞍環境自然保護員詰所賃借料
その他	170	乗鞍環境自然保護員詰所共益費
合計	16,933	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

乗鞍環境保全税の目的により、継続して実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

乗鞍地域の自然環境について、入り込む客が与える影響を低減させることにより、国立公園内での適正な利用増進を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

環境影響評価調査や乗鞍自然環境保護員の活動費用が事業内容であり、これらによる保全対策効果の数値化は困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価調査（大気環境状況、植生等影響、水質調査）を実施。 乗鞍環境自然保護員による登山道、遊歩道以外への踏み込み、ゴミの投げ捨て防止等の指導。 <p><成果>乗鞍スカイラインのマイカー規制及び乗鞍環境自然保護員による利用者のマナー向上のための啓発及び踏み込み防止指導の効果により、緩傾斜地では植被率が回復傾向にある。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価調査（大気環境状況、植生等影響、水質調査）を実施。 乗鞍環境自然保護員による登山道、遊歩道以外への踏み込み、ゴミの投げ捨て防止等の指導。 <p><成果>乗鞍スカイラインのマイカー規制及び乗鞍環境自然保護員による利用者のマナー向上のための啓発及び踏み込み防止指導の効果により、緩傾斜地では植被率が回復傾向にある。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 2	乗鞍地域は、観光客が容易に行くことが可能な高山地帯である。よって、利用者のルール違反やマナー低下が自然環境を悪化させる要因となるため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	乗鞍地域の自然環境は、概ね良好な状態が維持されている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	乗鞍自然環境保護員を複数年の委託契約とすることで業務品質の向上と費用削減を図った。(令和3年度)

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 乗鞍自然環境保護員は、過酷な自然環境の中で業務に従事するため、山岳地帯での活動に慣れており、自然環境への知識が豊富な人員の確保が必要である。 外国人観光客が増えており、啓発チラシなどの多言語化が必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 自然環境が改善し、概ね良好な状態が保たれているため、引き続き取り組む必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	